

2026年度事業計画

2026年度に予定している事業は、下記のとおりである。

1. 所蔵資料等の調査研究とその成果の発表
2. 資料の収集・整理・保管、修理保存
3. 資料の公開・展示等
4. 一般および青少年を対象とした教育普及活動
5. 美術館の運営

<公益目的事業>

I. 社会経済史・経営史関連事業（公1）

1. 三井に関する歴史研究の拠点としての役割を果たすべく、研究員各自の調査研究（* a）を一層深め、外部研究者の参加も得て各種研究会や史料輪読会などを定期的に行き、それらの成果を「三井文庫論叢」（第60号）、外部の論集・研究雑誌、学会・外部研究会などで発表する。
* a 三井を中心とする江戸時代における商業史・金融史・制度史・交通／流通経済史の研究、明治以降の経済史・経営史・政治外交史の研究など。
2. 三井関係資料（* b）の調査・収集を進める。
* b 近世では、三井一族・奉公人関係、取引先関係、縁故諸施設、個人所蔵資料など。近代では、三井銀行関係、旧三井物産関係、三井鉱山関係、関係会社社史編纂資料、個人所蔵資料など。
3. 資料保存環境の整備（* c）を進める。
* c 保存設備・保存環境の調査・点検、所蔵資料の点検と保存方法の改善。
4. 所蔵未整理資料の整理と公開準備（* d）を進める。
* d 旧三井物産資料、三井鉱山資料など。
5. デジタルアーカイブの構築作業（所蔵資料のデジタル画像作成（* e）、所蔵資料等のオンライン公開体制の整備（* f））を進める。
* e 三井グループ350周年記念事業による寄付を受けての三井家記録文書、三井銀行資料、旧三井物産資料、三井鉱山資料等のスキャニング・撮影など。
* f 資料画像公開プラットフォーム「三井文庫デジタルアーカイブ」での資料画像公開、三井文庫ウェブサイトでの三井文庫刊行物のオンライン公開など。
6. 所蔵資料の中から一般的に史料価値の高いものを「三井文庫史料叢書」として翻刻刊行する（* g）。
* g 2026年度は大坂両替店「聞書」第三巻の原稿修正作業を実施する。
7. 社会経済史研究の共通基盤となるデータベース（* h）の作成・公開の準備を進める。
* h 三井合名会社理事会議案データベース、三池鉱業所往復文書データベースなど。
8. 三井文庫WEBサイト（ホームページ）の充実をはかる。
9. 歴史資料の収集・保存・公開・研究に携わる国内外の諸機関・専門家との経験交流、

情報共有、共同研究などに取り組む。

10. 三井グループ各社の資料保存や歴史研修などの取り組みに協力する。

11. 研究成果の社会還元ならびに資料保存への関心喚起のため講演会など一般向けの普及広報活動に取り組む。

II. 文化史・美術館関連事業（公2）

● 文化史関係（資料の保管整理研究事業）

1. 美術館（三井記念美術館）の収蔵庫、三井文庫別館の収蔵庫・展示室改造の保管室、三井倉庫（辰巳）、以上三か所に分散保管する収蔵品につき、保管場所の固定化と、管理台帳への記載、管理要項の作成、定期的な実査の実施などについて、作業を進める。

美術品の移送にあたっては、美術品専門の運送業者に依頼し、細心の注意を払う。なお、修理・定期的手入れを必要とする資料（* i）については、専門業者や専門家に依頼し、修復・保全を図る。

* i 掛軸、巻物、屏風、漆工品、刀剣。

2. 美術館および三井文庫別館の収蔵庫・展示室内の環境を適切に管理し、保管に万全を期す。特に美術館の収蔵庫・展示室・展示ケースに関しては、文化庁が認定する公開承認施設として求められる温湿度・有害ガス濃度の基準を満たし、虫害・カビ等の管理を徹底し、空調設備の管理と調整に万全を期す。

また、収蔵庫内の温湿度と有害ガス濃度の測定を定期的に行う。さらに、別館および美術館収蔵庫・展示室の燻煙による害虫の駆除、美術館収蔵品・三井文庫別館収蔵品の二酸化炭素や燻蒸ガスによる、害虫およびカビの駆除などを、許される範囲内で状況に応じて実施する。また、燻蒸ガスの規制により、今後は収蔵庫内をこまめに清掃し、害虫やカビの発生を未然に防ぐ定期的かつ継続的な保全を行う。

3. 館蔵資料およびそれに関する資料、展覧会に関連するテーマについて、必要に応じて外部研究者の協力を仰ぎながら、調査研究を進める。また、並行して研究員各自の調査研究（* j）を一層進める。

* j 日本文化史、茶道美術史、陶磁史、絵画史、書跡史、漆工史、仏教美術史、神仏習合美術史等。

4. 2021年度、三井文庫本館と三井記念美術館に対し、三井不動産株式会社創立80周年の記念事業として1億円の寄附があり、美術館ではそのうち約5割を充当し記念事業を実施し、現在最後の事業として収蔵品のデータベース化とホームページでの公開を進めており、2025年度公開分の残りのデータベース化作業を続ける。

5. 『三井美術文化史論集』第20号を発行する。

6. 学会・大学・研究機関などの研究会等について、受け入れを都度検討する。

7. 他の美術館・博物館の展覧会等に対し、資料の出品協力を行い、学術文化の振興に寄与する。

● 三井記念美術館（美術館活動事業）

1. 2026年度は、三井記念美術館の展示室において、次の5期に分けて展覧会を開催する。
（年間開館日数 259日間）

○「開館20周年特別展 生誕1200年 歌仙 在原業平と伊勢物語」

2026年4月1日(水)～4月5日(日) 開館日数：5日間（前年度からの展覧会）

①「特別展 岐阜県現代陶芸美術館コレクション ティーカップ・メリーゴーラウンド
ヨーロッパ陶磁にみるモダンデザイン100年」

2026年4月18日(土)～6月21日(日) 開館日数：58日間

②「特別展 京都・真如堂の名宝」

2026年7月4日(土)～8月30日(日) 開館日数：50日間

③「館蔵の茶碗100撰－国宝から手造茶碗まで－」

2026年9月12日(土)～11月23日(月・祝) 開館日数：65日間

④「国宝 雪松図と四季」

2026年12月12日(土)～2027年1月30日(土) 開催日数：39日間

⑤「三井家のおひなさま 特集展示 三井家の羽簾」

2027年2月11日(木・祝)～3月31日(水) 開館日数：42日間

※展覧会終了は4月4日(日)

（注）展覧会名、開催期間等一部変更が生じる場合があります。

2. 美術品の貸出・借用にあたっては、管理・手続きを厳格に行い、事故防止の徹底に努める。

3. 上記展覧会のうち、①②③の展覧会では展覧会図録を発行する。

4. 美術館教育に関わる下記事業については、対面、オンラインを選択し実施を検討する。

- ・一般および青少年を対象とした講演会、講座、鑑賞会、ワークショップ
- ・教育機関、教職員を対象とした研修会、研究会の実施
- ・教育機関の研究会等の受入
- ・教育機関、学校の見学の受入
- ・大学生の見学、研修の受入
- ・都内の教育機関からの要望に基づく出張講座の実施

5. 青少年向けの展覧会ワークシートの制作・配布を行う。

6. 美術館の運営およびPR面において、以下のとおり取り組む。

(1)各展覧会の開催に合わせてプレス内覧会、特別内覧会、特別鑑賞会の実施を検討する。

(2)東京駅周辺の6美術館（アーティゾン美術館・三菱一号館美術館・東京ステーションギャラリー・静嘉堂文庫美術館・当館）で連携して下記事業を検討する。（出光美術館は2025年1月より長期休館）

- ・「東京駅周辺美術館共通券2027」の発行（2027年1月販売開始）
- ・「東京駅周辺美術館MAP（2026年4月～9月版／10月～2027年3月版）」発行
- ・「EDO TOKYO NIPPON アートフェス2026」の実施
- ・「学生無料ウィーク」の実施

なお、各事業については、各館の展覧会開催状況も含め、6館で運営している公式サイト「6museums.tokyo」にて都度情報開示を行う。

- (3)当館の普及広報活動の一環として例年参加している「東京・ミュージアム ぐるっとパス2026」に参加する。
- (4)集客強化対策として、有力会員組織との連携関係を検討する。
- (5)来館者のリピーター化の促進および新しい来館者層を開拓するため、ミュージアムショップにおいては、テーマ性や季節感のある演出を心掛けるとともに、オリジナルグッズの開発を進める。
- (6)リピーター層確保のため「ミュージアムパスポート」の販売、特典を継続する。
- (7)近隣の商業施設・ホテル・美術館などのほか、中央区主催のイベントへの参加や区民へのレクチャー等、日本橋地区の活性化に寄与するための事業へ参画する。
- (8)日本橋室町地区の商業集積度の向上に合わせ、外国人来館者等への対応を検討する。
- (9)展覧会の告知にあたっては、Instagram、Facebook等SNSによる情報発信のウェイトを増やし、SNS広告等も積極的に活用していく。
- (10)三井グループ各社へのインナーキャンペーン強化のため、「賛助会社社員・家族特別招待会」、「賛助会社部門長特別招待会」、「賛助会社社員招待会」、「賛助会社女性社員招待会」等の開催、また各社の新入社員研修等の受け入れを検討する。
- (11)賛助会社VIP、優良顧客ご招待など、美術館閉館日または閉館後の貸切り特別サービスについて受け入れを行っていく。

Ⅲ. 松の茶屋保存公開事業（公3）

2026年度は箱根町と協議の上、引き続き「文化財探訪会」を通じて公開するとともに、建築、茶道等関連研究者等の見学会や外部講師を招いた研究会を実施する。

保存については、霞の間の屋根および松月の間の修繕等の工事を中心に行う予定である。

＜収益事業＞

Ⅰ. 不動産賃貸業

三井花桐ビルは売却し、他の資産に入れ替える予定である。このため、2026年度の修繕工事は必要最低限にとどめる。

＜三井グループ350周年記念事業＞

「三井グループ350周年記念事業」は2023年度からスタートし、2026年度は事業当初から実施している社会経済史研究室史料のデジタル化を継続することに加えて、中野別館の旧展示室を改修し美術品等の保管環境の改善を図る予定である。

1. 社会経済史研究室所蔵の史料のデジタル化（公1、2023年度～2027年度）
2. 中野別館（旧展示室）の改修（公2、2026年度）
3. デジタル化のプラットフォーム・特設webサイト制作（公1、2023年度～2027年度）
4. 「越後屋開業350周年記念特別展 三井高利と越後屋－三井家創業期の事業と文化－」の

開催（公 2、2023年度に実施済み）